

事業計画書

平成21年度
(2009年)

自 平成21年4月 1日
至 平成22年3月31日

普及事業部

I. 事業の概況

普及部会 【8,729 千円】

1. イベントへの参加、体験教室・講習会の開催支援、人材の育成、現場に直結した普及システムの整備など、本年度は下記事業を実施する。

(1) 第24回国民文化祭しずおか2009 (441千円)

会 期：2009年10月31日～11月3日(4日間)

会 場：静岡県静岡市ツインメッセ静岡

事業内容： 1) ミニブリッジ体験教室、練習サロン

2) パネル、カード及びブリッジが登場する小説等ブリッジ関連資料の展示

3) 各種PCソフトウェア紹介とプロモーションビデオ放映

●ブリッジの持つ、文化面・教育面・コミュニケーション促進面などの意義をアピールする。

(2) 第21回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア埼玉2009」(170千円)

会 期：2009年10月30日～11月3日の間の2日間(10/31、11/1を申請中)

会 場：埼玉県さいたま市さいたまアリーナ

事業内容： 1) ミニブリッジ体験教室

2) コントラクトブリッジのデモンストレーション

3) パネル展示／プロモーションビデオ放映

(3) NECブリッジフェスティバル体験教室 (580千円)

首都圏で最大の集客が見込める場であることを活かし、ミニブリッジ体験教室のほか、初心者ゲーム大会を開催しブリッジセンターやクラブ、カルチャーセンターなどで基礎を習得したばかりの初心者プレイヤーが競技ブリッジの面白さを知る機会とする。また、NECの社会貢献活動としての位置付けであることから「社会に役立つブリッジ＝マインドスポーツ」であることを広く一般社会に訴求するために、WMSG2008チームジャパンを組んだチェス、囲碁、チェッカー、シャンチー各競技団体と多彩なプログラムを展開することで各競技の相互紹介およびブリッジ人口の拡大をめざす。

会 期：2010年2月14日～15日(2日間)

会 場：横浜国際平和会議場アネックスホール(神奈川県横浜市)

事業内容： 1) ミニブリッジ体験教室、コントラクトブリッジ練習サロン、初心者用ゲーム大会「第3回デビュタント杯／第2回ビギナーズ杯」など。

2) チェス、囲碁など、他のマインドスポーツ種目の体験コーナー、対局コーナーなど

3) ミニマインドスポーツゲーム大会

4) パネル展示、各種PCソフトウェア紹介とプロモーションビデオ放映

(4) 「ブリッジを愉しむ会」 (740千円／参加料収入予測 800千円)

年4回、日頃ブリッジをプレイする機会が少ないプレイヤー諸氏が交流を愉しむ場として企画。

(5) ミニブリッジ指導法講習会 (160千円)

普及に関心のあるプレイヤーを対象に、要望により全国で開催。ジュニアからシニアまで幅広い年代に受け入れられやすいミニブリッジから教えられる人を増やし、裾野拡大をはかる。

(6) 体験教室・講習会への助成 (2,440千円)

体験教室・入門講習会を開き、ブリッジ愛好者を増やしたいという人々の自己負担を軽くする支援を行い、開催場所・回数の増加をはかる。また、カルチャースクール講座においても、受講者の数やレベルの違う受講生を同じクラスで指導するなど、講義の質を保つためのアシスタントが必要になった場合はこれを支援する。

1) 体験教室の助成

- 2) 入門教室の助成
- 3) カルチャーセンター講座アシスタント料助成

(7) カルチャースクール講師助成 (720 千円)

ブリッジを広めるにあたって特に重要と普及事業部が判断した地域のカルチャースクール入門講座において受講者が少数でもカルチャー側・講師側双方に開講意欲が認められ、且つ受講者増加が見込まれる場合、講師料を助成して支援する。

2. 地方への普及活動 (1,673 千円)

地方ブリッジの活性化と会友増加のための調査・普及活動と地方クラブ・同好会の支援のための事業。

- (1) 地方クラブ・同好会活性化のため調査員を派遣し、円滑なクラブ運営や普及活動を支援する
対象：九州を除き、北海道から沖縄まで全国のクラブ・同好会
- (2) 地方クラブ主催リジョナル等、競技会を活用しての地方活性化支援
要請により地方クラブ主催の競技会開催時に講師を派遣しての体験教室実施や連盟職員による広報活動、初心者ゲーム大会開催支援を行い、地方会友増加の足がかりとする。
- (3) 地方大都市圏の活性化
第2次5カ年計画の重点目標に設定された標記事業の本格的実施を開始する。ターゲット地域の選定、事業計画作成、関係者との打ち合わせ作業などを始め、計画の早期達成に向けての作業を行う。

3. 海外クラブへの支援 (80 千円)

海外クラブと互いの最新情報を共有しながらメンバーの定着、増加のために地元が必要とする支援を行うとともに、赴任者・帰国者へのプレイ場所紹介など細かいサービスを行うことでプレイヤー増加につなげる。

4. 会員サービス活動「全国ブリッジ 巡ってビンゴ」(300 千円)

全国各地の競技会に参加することで自動的に「ビンゴ」に参加し、達成者にはインセンティブがあるという会員・会友を対象にした企画。

5. 新入会友の獲得 (225 千円)

「新入会・再入会」キャンペーンと会員・会友を対象にした「紹介キャンペーン」を実施し、会友の増加をはかる。新入会者/再入会者/紹介者双方にJCB Lオリジナルグッズを進呈する。

6. リタイア層へのブリッジ普及 (200 千円)

2008 年度に学会発表を行った東京女子医科大学と JCB L との共同研究「ブリッジと脳」(カードゲームが高齢者の脳に与える影響) の成果を最大限に活用し、リタイア層/シニア層を対象にしている団体・組織とイベントや広報面でのタイアップ企画を実施する。

7. インターネットを利用したブリッジ普及 (0 円)

新規に立ち上げる「普及ネット」を活用し、現在ネット講習会を行なっている会員・会友から意見や提案などを活かしてネット普及の有効な在り方を探る。

8. 普及ネット (1,000 千円)

普及システム強化の基盤となる、全国で普及に携わる会員・会友(呼称:ブリッジ・インストラクター)が登録の上参加するネットワークシステムを立ち上げる。会員同士およびJCB L との間で円滑且つ迅速に普及情報を共有し、双方がより活動しやすくなる環境をつくることで普及力アップをめざす。

- 1) インターネットで閲覧できる情報共有メディアとして「普及通信」を毎月発行。
- 2) インターネットを使用しない希望者には、紙ベースで郵送。
- 3) 「ブリッジ・インストラクター」登録証発行 *希望者
- 4) 普及Tシャツ購入助成

教育部会 【2,332 千円】

若年層に対するブリッジの認知度拡大をはかり、教育現場におけるブリッジ普及活動を活性化させることを目的に、本年度は次の事業を行なう。

1. 東京大学ブリッジ講座 (894 千円)

4年目を迎える東京大学教養学部全学体験ゼミナール「考える力を養う～コントラクトブリッジ」授業（2単位。前期／後期 各15回授業）の円滑な運営のためにアシスタントを派遣するほか、教材・指導システム等、他大学や一般講習会にも応用可能なコンピュータを利用しての新しい講習システムの確立につなげていくための支援を行なう。

- 1) アシスタント（2名）、フローターの派遣
- 2) 授業準備（教材コピー、発送作業、ボード組み込み等）支援
- 3) 四谷BCで実施する最終講義（競技会、BC見学）開催支援
- 4) 受講生への会報配布支援
- 5) 教材改良、その他授業に必要な技術的支援

2. 早稲田大学ブリッジ講座 (1,000 千円)

早稲田大学で、ブリッジの指導法を研究することを目的として2008年に設立された「ゲームの科学研究所」を母体に、同大学メディアネットワークセンター設置提携講座として開講する同大学初のブリッジ講座「コントラクトブリッジで学ぶ数理化学入門～論理的思考力を身につけよう」（2単位。前期／後期各15回）を支援する。本講座は東京大学ブリッジ講座とは異なってミニブリッジからコントラクトブリッジ基礎までを指導する。また、オープン科目としての位置付けで、学習院大学、学習院女子大学、日本女子大学、立教大学、東京家政大学学生、高校生の履修も可能であるため、大学生を対象にした新しい指導法の確立とともに他教育現場への拡大をめざす。

- 1) 講師料／アシスタント料／交通費支援
- 2) 授業準備費／用具の支援
- 3) 教材印刷／コピー費／宅急便等、必要経費の支援

3. 学校ブリッジ講師養成／助成 (312 千円)

小学生から高校生を対象授業講師として、あるいはクラブ活動指導者としてなど、さまざまな教育現場でミニブリッジ／コントラクトブリッジを対象年齢に応じて適切に指導できる講師を養成する。

4. ブリッジ授業拡大活動 (126千円)

教育関係者を対象にしたブリッジ授業プレゼンテーション・PR活動を行ない、授業もしくはクラブ活動などへの採用を働きかける。（2～3校予定）

ユース部会 【6,057千円】

将来のブリッジ界を背負う若年層への普及のため、本年度は以下の事業を行なう。

1. 青少年対象イベントへの参加 (135千円)

教育関連機関（文部科学省・教育委員会・学校・PTA等）／行政機関（都道府県・市町村等）／他組織・団体の青少年対象イベントで体験教室を開催し、ブリッジの認知度・信頼度の向上に努め、授業・クラブ活動への採用につなげる。

2. 現役ユースへの支援

現ユース・ジュニア会友がブリッジを通して心身・勉学ともにバランスの取れた健全な成長をしていくことを最優先におきながら、若年層プレイヤーの育成と底辺拡大をめざす。大学や高校のクラブへの支援、学生が運営する学生リーグへの支援・助成、意欲ある若年層のための強化プログラムなど技術向上支援、および日本代表としての海外遠征機会の提供・助成を行い、若年層がブリッジを継続できる環境を整備する。

(1) 新入部員勧誘活動助成 (200千円)

学生・OBからの要請に基づき、大学・高校・中学ブリッジ部の新入生勧誘活動を支援・助成。若年層プレイヤーの底辺拡大の一助とする。

(2) 学生合宿の支援 (583千円)

春・夏の2回開催予定の学生リーグ主催による合宿にブリッジを始めたばかりの学生の参加を促すため、宿泊費・交通費の一部を助成する。また、要望があった場合は講師・アシスタントを派遣する。

4. ユース・スクール代表選抜・強化プログラム・国際試合への派遣

(1) 第46回P A B F選手権大会へ2チーム(ジュニア/スクール)派遣 (2,151千円)

会期:2009年6月18日~28日(11日間) 開催地:中国、マカオ

内容:25歳以下(U25)のジュニアチーム6名、20歳以下(U20)のスクールチーム6名、計12名の選手派遣に伴う航空運賃、宿泊費、参加料、海外保険料、ユニフォーム代などを助成するほかNPC1名派遣。

*特筆事項:グレード1の国際試合のため、各選手は@¥30,000を自己負担する。

(2) 第1回ワールドユースチャンピオンシップへの派遣 (1,185千円)

会期:2009年8月15日~23日(11日間) 開催地:トルコ、イスタンブール

トランスナショナル方式で行なう初のユース世界選手権に選手6名を代表として派遣。航空運賃、宿泊費、海外保険料、参加料、ユニフォーム代を助成。NPCは派遣せず。

*特筆事項:グレード2の国際試合のため、各選手は@¥50,000を自己負担する。

(3) ユース強化プログラム (1,703千円)

2009年度の代表選手および2010年度代表候補登録を申し込んだプレイヤーを対象に、実践練習会参加費の助成、強化練習会、選考試合の開催および講師派遣、遠方からの参加者の交通費・宿泊費を助成。

(4) ユース/ジュニア会友の国際試合への参加助成 (100千円)

ユース会友が国際経験を積むために海外の競技会へ参加する場合、参加料などを助成。

ジュニア部会【支出:2,339千円/参加料収入予測 490千円】

「ジュニアくらぶ」システムを活用しながら、ジュニア層およびその保護者に対するブリッジの認知度・イメージ向上、ジュニア総プレイヤーの数的・地理的基盤の拡大を図るとともに長期的にブリッジを継続してもらえるような将来のブリッジ界を担うジュニアプレイヤーの育成をめざす。

(1) ジュニアくらぶ活動 (882千円)

- 1) ジュニア層向け普及広報活動全般の企画・運営
- 2) ジュニアくらぶイベントの企画・運営(ジュニアサロン、ハシノスケ道場、ジュニアキャンプなど)
- 3) ジュニアくらぶ活動の運営・管理(会員データ管理、スタンプラリー運営・管理など)
- 4) ジュニア向け広報・営業(ジュニアくらぶ通信の製作・発行、会報ジュニアコーナー、チラシ、ウェブサイト、登録者向けメール配信など)
- 5) ジュニア向け指導システム・ツールの企画・開発(コントラクトブリッジへの移行を含み、指導法の開発、ジュニア向け汎用教材の開発、指導者・普及協力者の開拓、など)

(2) ジュニアサロンの開催 (166千円)

ジュニア層がミニブリッジを体験、練習できる機会を参加料無料で提供し、初心者たちがミニブリッジに親しみ、楽しみながら継続できる環境の整備をめざす。また保護者の参加も促し、家族で遊びながらブリッジを継続していける環境づくりもめざす。

開催予定:横浜BC3回(春、初夏、秋冬)、京葉地区5回(京葉2回、八千代台3回)。横浜開催分のうち1回は株スターナインとのブリッジ・囲碁コラボレーションイベントとする。

(3) 橋之介道場シリーズの開催 (610千円/参加料収入86千円)

年齢と経験別に、四谷・横浜地区で原則着き1回、日曜日の午前と午後に3つのプログラムを開催。

- 1) ミニひろば 18回(四谷BC11回、横浜BC7回) 参加料:@¥200/1名
ジュニアとその保護者(親、祖父母)を対象にした体験教室(ジュニアのみの参加も可)
通常のジュニア向け体験教室としての機能もたせつつ、会員・会友が家族でブリッジを楽しめるきっかけを提供する場としても活用。同一グループで2回まで参加可とする。
- 2) プレ道場 18回(四谷BC11回、横浜BC7回) 参加料:@¥200/1名
ミニブリッジをしばらく休んでいたジュニアや、午後開催のミニ道場に入る前の年少ジュニアの受け皿。技術指導よりもプレイになれることや自発的に行動できるようになることに重点を置く。

3) ミニ道場 15回(四谷BC10回、横浜BC5回、それぞれ2回は午後スペシャル大会)

参加料: @¥300/1名

4) 特別道場 四谷BCにて7月開催

5) スペシャル大会 参加料@¥500/1名

ミニ道場参加者が日頃の練習の成果を試す場として四谷BCと横浜BCで計5回開催。

四谷BC: 8月、12月、3月 横浜BC: 年度内に2回開催

(4) 「夏休みジュニアキャンプ2009」の開催(554千円/参加料収入352千円)

夏休みと言う機会を利用して、普段余り顔を合わせる事のない各地域のジュニアクラブメンバー同士の交流を促すとともに、ミニブリッジの楽しさを深く知ってもらい、ジュニア層の定着を図る。昨年に引き続き、対ジュニア普及に関心のあるプレイヤーやスポンサーの見学の場としても活用し、ジュニア指導者の育成に役立てる。講師・スタッフ14名体制で臨む。

日程: 2009年7月20日~21日(1泊2日)

場所: 東京都八王子市高尾の森わくわくビレッジ

募集予定人数: 32名、参加費: 11,000円

*ボランティアスタッフの往復交通費、宿泊費、食費は普及事業部が負担

(5) ミニブリッジ大会「ハシノスケ杯」の開催(50千円/参加料収入20千円)

ジュニア層にパートナーと組んで試合をする楽しさ、勝った時の嬉しさを覚えていく機会を提供するとともに、競技会と言う形式に慣れ親しんでもらうことによりデュプリケートブリッジに対する理解を深める。現在道場シリーズを開催していないために大会参加の機会が少ない京葉地区、およびNECブリッジフェスティバルで開催予定。 *参加料: 子ども500円、大人1,000円

(6) 「第2回ジュニアチーム選手権」の開催(77千円)

将来、全国から予選を勝ち抜いたチームが競う「全日本ジュニアミニブリッジチーム選手権」に発展させることをめざしている競技会。出場をめざすこと、参加することによってジュニア層によりブリッジを深く知ろうという気持ちを起こさせ、プレイヤーであることを誇らしく思うような格式の高いジュニア向け競技会として定着を図る。

開催予定: 11月 参加料: ¥4,000/チーム

内容: 1チーム4~6名出エントリー。予選を行い準決勝以上への進出チームを決定。

広報部会 【20,141千円】

1. ブリッジ普及広報宣伝活動(3,051千円)

現代社会においてブリッジが果たす社会的意義の視点を取り入れた広報活動をさまざまな媒体に対して展開し、ブリッジの知名度・認知度向上をめざす。雑誌・テレビなど全国メディアを主ターゲットとして効率良く、幅広い広報営業を行っていく。

(1) マスメディアへの広告掲載

(2) 対メディア広報活動

全国のメディアに対して、ブリッジを理解してもらい、掲載につなげるためのPR訪問活動やリリース送付、ウェブページへの掲載などの情報提供、「メディアナイト」を開催。

(3) 地方クラブの広報活動支援(地方クラブの要請により、広報アドバイス、資料やデータの提供を行う)

(4) リリース配信サービスの利用

(5) クリッピングサービスの利用

2. マインドスポーツ活動広報/他業界とのタイアップ活動広報(792千円)

全国レベルでマインドスポーツという共通項を持つIMSAMEMBERの囲碁、チェス、チェッカー他競技団体との共同イベントや他業界とのタイアップイベントを実施し、ブリッジを広報する機会を増やす。ブリッジにとって最大の広報効果となるJOC加盟を実現させるためにも、国内にマインドスポーツという新しい概念が浸透するようあらゆる機会を逃さずに広報していく。

(1) 日本チェス協会、国際囲碁連盟、日本棋院、関西起因、日本ペア碁協会などIMSAMEMBERのイベントへの相互出展

(2) IMSA・マインドスポーツを主テーマにした広報活動

3. 「ブリッジと脳」研究広報 (630千円)

ブリッジをすることは高齢者の生活上の記憶力保持に効果があるとの学会発表および学術論文発表を2009年度の広報戦略の柱として有効活用する。

- (1) 海外学術誌掲載に合わせた広告宣伝
- (2) 講演会などPR活動の展開

4. ブリッジに関する出版物の刊行 (11,900千円)

定款第5条(6)に定められた、コントラクトブリッジに関する出版物の発行について、次の書籍を出版する。経費を押さえるため、印刷手法を変更して実施する。

- (1) 会報「JCBLブリテン」
年6回奇数月1日発行、各7,500部
- (2) 「JCBL HANDBOOK」
5月1日 8,000部発行

5. 広報ツールの製作 (1,317千円)

ブリッジの普及・啓蒙活動の効果を高めるため多様に展開可能な下記広報ツールを製作し、質・量ともに充実した広報ツールが一般社会、全国のメディア、普及現場に行き渡るようにする。

- (1) パネル・ポスター製作：新PRポイントである「ブリッジと脳」をテーマにしたわかりやすいパネル、ポスターを製作し、全国的にブリッジの社会的意義を訴求する。
- (2) 普及グッズの製作：Tシャツ他、小物のオリジナルグッズを数種製作し、ミニブリッジ大会や初心者ゲーム大会などの際の参加賞や賞品としても提供できるようにする。
- (3) 橋之介ファミリー/フレンズのイラスト画10種作成：ウェブ、チラシ、ポスター、パネル他展開用
- (4) 年賀状印刷
- (5) 広報資料製作
従来の手作業での広報資料ファイル作りも継続して行い、常に最新の普及・広報情報の提供をめざす。

6. ウェブサイトの運営 (2,451千円)

ブリッジに関する最新トピックス、ニュースCBLの事業内容、競技会情報、各種申込みなど最新情報を広く一般公開するとともに、会員サービス、初めてブリッジに接する人への普及・広報宣伝活動に資する。

ウェブサイトの全面更新から丸4年を経過し、広範囲で質の高い多様な情報が蓄積されたことはウェブサイトの充実を表している反面、整理作業を必要とする段階にも入ったことでもあるため、会員・会友に対し、また、ブリッジに関心を持ってアクセスする非プレイヤーにとりより丁寧で役に立つ、ブリッジ普及にとっては最大限の効果が期待できるウェブページへの進化をはかる時期となった。常に進化するウェブページであることをめざして更新作業を行っていく。

- (1) ウェブサイト維持更新料
- (2) BCとの間のプログラム改修費用(1ヶ所想定)
- (3) コンテンツ執筆料

その他普及事業部の目的を達成するための事業 【30,770千円】

普及事業部の目的を達成するため、本年度は以下の事業を実施する。

- (1) 各種講習会への会場の提供
- (2) その他目的達成に必要な経費
人件費、交通費、通信費、会議費等、普及・出版・広報活動に必要な経費。

以上

競技会事業部

I 事業の状況

1. コントラクトブリッジ競技会の主催と公認【収入174,800千円】

定款第5条(3)に定められた「コントラクトブリッジ競技会的主催と公認」については、本年度は以下の事業を実施する。

(1) 競技会的主催（収入54,820千円）

1) ナショナル（全国大会）競技会 [収入31,680千円]

競技会名	日 程	予定卓数
玉川高島屋S・C杯	4月18、19日	90
文部科学大臣杯関東予選	5月9、10、16、17日	52
藤山杯	7月4、5日	144
外務大臣杯	8月22、23日	74
高松宮記念杯	9月19、20、21、26、27日	108
読売新聞社杯	10月24、25日	173
高松宮妃記念杯	10月30、11月1日	88
NISSANブルーリボン杯	12月23日	130
エンゼル・レッドリボン杯	12月23日	45
朝日新聞社杯	1月9、10、11日	152

2) リジョナル競技会 [収入19,456千円]

柳谷杯	4月4、5日	144
サントリー杯	4月29日	122
日本航空杯	5月23、24日	72
モンタルト杯	7月25、26日	36
丸の内杯関東予選・決勝	8月29、30日	14
夏季シニアチーム	8月29、30日	20
萩原杯	10月3、4日	100
服部杯	12月2日	200
春季リジョナル	3月20、21日	32
渡辺杯	3月27、28日	72

3) 日本リーグ [収入3,360千円]

1部	前期4、7月、後期12、1月	16
2部		24

4) 社会人リーグ [収入324千円]

社会人IMPリーグ	11月～3月	18
-----------	--------	----

(2) 競技会の公認（収入118,048千円）

1) ナショナル競技会 [収入1,000千円]

NRM杯、任天堂杯並びに主催ナショナル競技会 予選を含む20競技会を公認		160
---	--	-----

2) リジョナル競技会 [収入6,776千円]

主催リジョナル競技会予選を含む42競技会を公認		1,500
-------------------------	--	-------

3) セクショナル競技会 [収入69,652千円]

約1,900競技会を公認		27,500
--------------	--	--------

4) ローカル競技会 [収入1,800千円]

約460競技会を公認		2,800
------------	--	-------

5) IMPリーグ [収入30,720千円]

5月～9月		2,560
11月～3月		2,560

6) クラブ選手権 [収入8,100千円]

約1,400競技会を公認		12,000
--------------	--	--------

(3) ウィークリー収入 (2,660千円)

(4) 競技会の主催と公認事業経費 (39,886千円)

競技会の開催と公認及び定款第5条(4)に定められた「マスターポイント制度の確立と実施」のために必要な主な経費の内訳は以下のとおり：

人件費 [5,481千円]	旅費交通費 [170千円]
通信運搬費 [2,200千円]	会場費 [15,825千円]
消耗品費 [6,764千円]	賞品費 [5,221千円]
助成金 [4,225千円]	

2. 競技会の水準向上のための講習会等の開催 (6,932千円)

競技会の水準と環境の向上のためのディレクター講習会の開催、競技会運営ソフトの開発などについては、本年度は以下のような事業を実施する。

(1) J C B Lハンドブックの作成 [80千円]

競技会参加者の手引き、J C B Lハンドブックの改訂作業を行う。

(2) ディレクター講習会 [220千円]

- ・東京および地方でクラブ並びにセクショナルディレクター講習会を開催する。
- ・ディレクター講習会受講者向けに実地に教育する実習の場を設けディレクターの技術向上を図る。
- ・ディレクター勉強会を開催する。
- ・ディレクター講習会用教材、ディレクターマニュアル改訂、ディレクター向けウェブサイトの作成など教材、資料などの作成、整備を行う。

(3) 公認クラブ支援 [162千円]

公認クラブ会議出席に対する支援を行う。

- ・会議費および食事代—102千円
- ・地方クラブ会議宿泊費補助—60千円

(4) 競技会運営システムの保守 [2,702千円]

平成14年度から開発を開始し平成20年10月にバージョン2.6をリリースした競技会集計ソフト(JTOS)については、本年度は以下のような事業を実施する。

- ・開発用機材購入費—150千円
- ・メンテナンス料—2,520千円
- ・会議費—32千円

(5) ブリッジライブラリー運営事業 [970千円]

定款第5条(6)に定められた「コントラクトブリッジに関する出版物の発行および資料の収集と管理」について、本年度は次のような事業を行う。

- ・図書分類、キーワード設定経費—50千円
- ・消耗品費—20千円
- ・書籍購入費—750千円
- ・書籍製本費(雑誌の製本および破損図書の修理)—150千円

(6) ネットブリッジ推進 [221千円]

インターネットを利用したブリッジ競技会の検討、実施を行う。

(7) ウィメンズ強化 [200千円]

若手女性プレイヤーのために託児所利用の補助を行う。

(8) 競技委員会 [280千円]

競技会における裁定、コンベンションの規程の制定、マスターポイント規則の管理など技術的事項の検討を行う。

(9) カテゴリー検討 [20千円]

レイティングによる公認条件など、カテゴリー全般の検討を行う。

(10) ルール委員会 [20千円]

「デュプリケートブリッジの規則2007年版」のJ C B Lとしての解釈を公表し、プレイヤーへの啓蒙を行う。

(11) センターサービス向上委員会 [944千円]

ブリッジセンターおよび常設ブリッジクラブのゲーム環境全般についての検討およびサービス向上策の企画立案を行う。

- ・AED購入費用—800千円
- ・競技会結果閲覧Webサイト運営経費—100千円
- ・会議費—44千円

(12) ナショナルディレクター養成 [1,113千円]

ナショナルディレクターを養成し、将来連盟主催競技会のディレクターを担当させる。

- ・実地訓練費用—960千円
- ・交通費助成—100千円
- ・会議費—53千円

3. その他競技会事業部の目的を達成するための事業【42,067千円】

競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料など

国際交流事業部

I 事業の状況

1. 国際試合へ日本代表の派遣と選抜

定款第5条(5)に定める「コントラクトブリッジを通しての国際交流」については、本年度は以下の事業を実施する。

- (1) 第46回太平洋アジアブリッジ連合(PABF)マカオ大会への代表派遣及び運営協力
[3,737千円]

会 期：平成21年6月18日～28日

会 場：マカオ

事業内容：1) オープン、ウィメンズおよびシニアの代表チーム派遣
2) 代表チームへの大会参加料の助成
3) PABF代表者会議へ役員派遣
4) 大会運営スタッフの派遣

- (2) 世界ゾーンチーム選手権への代表派遣 [10,167千円]

会 期：平成21年8月29日～9月12日

会 場：サンパウロ、ブラジル

事業内容：第46回PABF選手権で代表権を獲得すれば8月29日～9月12日に開催される世界ゾーンチーム選手権に代表を派遣する

- (3) 招待試合チーム派遣 [450千円]

事業内容：各国ブリッジ組織から日本代表チームへの招待があった場合チームを派遣する。

- (4) 第47回PABF選手権日本代表選抜試合 [838千円]

会 期：平成21年11月14、15日、12月12、13日

会 場：四谷ブリッジセンター

事業内容：1) 平成22年にニュージーランドで開催予定の第47回PABF選手権に参加するオープン、ウィメンズ各1チームを選抜
2) 選抜試合参加者への交通費と宿泊費の助成
3) 代表チームへの国内試合参加料、練習会費用の助成

- (5) 代表チームユニフォーム助成 [840千円]

事業内容：第47回PABF選手権日本代表チームにユニフォームを支給する。

2. 第14回NECブリッジフェスティバルの開催 (23,263千円)

会 期：平成22年2月9日～14日

会 場：横浜国際平和会議場

事業内容：国外の一流チームを招待して日本人プレイヤーの技量向上と国際交流の促進を図る。

1) NEC杯：平成22年2月9日～13日

2) 横浜スイスチーム：平成22年2月13日

3) 飛鳥杯：平成22年2月14日

4) 横浜IMPペア：平成22年2月12日

5) BIGLOBEシリーズ：平成21年9月～12月

5) ミニブリッジ体験教室の開催 (普及事業部扱い)

(収入12,500千円)

3. その他国際交流事業の目的を達成するための事業

本年度は、国際交流事業の目的を達成するために必要な事業として、以下の事業を実施する。

- (1) 世界同時大会への参加

平成21年6月5日および6日に開催が予定される世界同時大会開催に参加協力

- (2) P A B F 同時大会への参加
平成21年11月～平成22年4月まで毎月第1金曜日／土曜日に開催が予定されているP A B F 同時大会開催に参加協力
- (3) 海外競技会に参加する会員の支援と海外への情報提供と収集
 - 1) A C B Lとの提携の継続・強化：A C B L 競技会を会報で紹介
 - 2) P A B F 加盟国競技会の開催情報の提供
 - 3) W B F 加盟国の競技会開催情報の提供
 - 4) J C B L ホームページを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連ホームページから情報を収集し、会員に提供する。
- (6) その他目的達成に必要な経費[2,447千円]
交通費、通信費、会議費等の国際交流事業に必要な経費

九州支部

2009年度の課題は、任期満了に伴う理事会新体制の下に、PABF コンgressの福岡開催決定で採択された「PABF2012」福岡委員会アピール（3項目）の実現に向けて、新たな始動を始めることにあります。市民に向けたアピールの骨子は、「国際親善・文化交流の進展と地域活性化に資する PABF 大会」を目指すとともに、Congress開催をブリッジ普及の絶好の機会と捉え①学校教育・社会教育・生涯教育へのブリッジ普及活動の推進②大学や企業へのブリッジクラブや同好会の設立に努力する一の3点について、九州支部に大きな期待を寄せたものです。このアピールは、九州支部にとりまして、今後の九州地区におけるブリッジ普及活動を推進していく上で、越えなければならないハードルと考えております。連盟本部の指導を受けながら、その実現に向けて最大限の努力をしていく所存です。改めてご支援をお願いします。

ブリッジ普及に向けた具体的な展開としては、官民一体となって組織された「PABF2012」福岡委員会の期待にこたえるべく、まずは理事会体制の充実を図ったところですが、より市民に親しまれるブリッジ団体を目指すとともに、「大人と子供が一緒に遊ぶ、楽しいブリッジ」の普及のため、広報活動を多彩に展開しながら、社会教育、地域、各種団体、企業等への働きかけを行い、ブリッジ愛好者の増大に努め、コントラクトブリッジ競技人口の拡大を目指して参ります。

また、九州支部としては、九州で初めて開催される PABF 大会の場で九州チームの優勝を願いたいところです。そのためには、競技会の発展、充実に努め、プレイヤーの技術向上を図る必要があります。九州には存在しない、ジュニアチームの育成も課題です。特定の大学をモデル校に積極的にクラブづくりを推進し、PABF コンgressに間に合うように若手プレイヤーを育成を目指す必要があります。九州支部といたしましては、連盟本部のご支援および九州在住のブリッジプレイヤーの協力を得ながら、大学への働きかけを行なうとともに、PABF 大会時期に開催されている山笠リジョナルテレビ西日本杯に韓国チームを招待、国際大会である PABF 大会への布石を構築していく所存です。

連盟直轄の福岡ブリッジプラザとの連携強化は喫緊の課題です。同プラザの健全かつ安定的な経営に寄与するために支部とプラザ幹事会で構成する運営委員会の充実、発展に協力し、同支部と同プラザの緊密な連携をはかりつつ事業活動を円滑に推進していきます。

普及事業活動の主な項目

1、PABFの福岡開催に伴う活動

- (1) 「PABF2012」福岡委員会の活動支援と広報展開（市民の関心を喚起）
- (2) PABF コンgress参加チームの育成（特定大学へのアプローチ強化）
- (3) 山笠 TNC 杯への外国チームの招待（本年度は韓国チーム1～2チーム）

2、市民向けブリッジ普及活動の支援体制づくり

- (1) 福岡ブリッジプラザ展開のコントラクトブリッジ普及講座およびコントラクトブリッジインストラクター養成講座への支援
- (2) 高齢者および学童を対象とする支部主催ミニブリッジインストラクター養成講座の開催（卒業資格者は地方会員になり、支部活動の支援者として養成）
- (3) 公民館職員を対象にしたブリッジ普及活動他

3、ブリッジ普及活動（一日体験会、講習会、出前講座の展開）

- (1) 社会教育、学校教育、生涯教育分野でのミニブリッジ普及活動
（当面は公民館を中心にしたシニア、女性層への普及活動）
- (2) 民間カルチャーセンターとの連携によるコントラクトブリッジの普及事業

4、ブリッジ普及（PABF コンgressへの支援活動を含む）に賛同する法人賛助会員の拡大および特別協賛法人の発掘

（賛助会員および特別協賛法人には福岡ブリッジプラザ利用券を配布）

5、支部広報活動の展開

- (1) 支部会報編集委員会の設立及び会報発行（年間2～3回）
- (2) メディア・市政だより等への働きかけ
- (3) 福岡ブリッジプラザ発行広報紙（又は機関紙）の発行支援

以上

添付資料 「PABF2012」福岡委員会アピール

「PABF 2012」 福岡委員会アピール

- 1, 「PABF 2012」福岡委員会は、「第7回 PABF コングレス」が福岡市で開催されることを歓迎し、アジア各国から来訪するブリッジプレイヤーとの交流を通じて、国際親善・文化交流の進展と地域活性化に資する大会の実現に協力する。
- 1, 「PABF 2012」福岡委員会は、大人も子供も一緒に楽しめるブリッジを通じて健全で明るい地域社会づくりを目指している社団法人日本コントラクトブリッジ連盟九州支部が展開中の学校教育、社会教育、生涯教育におけるブリッジ普及活動を理解し、協力する。
- 1, 「PABF 2012」福岡委員会は、大学、専門学校、企業、各種団体にブリッジクラブや同好会設立を目指す同連盟九州支部の活動に理解を示すとともに、本大会に向けて九州地区のブリッジプレイヤーの育成、技術の向上に期待する。

2008年9月1日

「PABF 2012」福岡委員会
委員長 河部 浩

福岡ブリッジプラザ

プラザ3年目の2009年度は、従来の新人発掘としての体験教室を3月末と9月末に開催し、入門講習会を4月及び10月から、それぞれ週1回ずつ計24回を更に継続して行く。そのための広告を西日本リビング新聞を核にして新聞の折込チラシなど他の媒体を探して行く。また、体験教室参加者の半分以上は口コミによるものなので、プラザのお客様に体験教室の案内を配って知人の紹介をお願いしていく。これまでに入門講習会を終えた新人をプラザに定着させるためにサロンと初級者向けのウィークリーゲームを更に充実して行く。入門コースを終えた人向けにレベルアップ初級講習会を、コンベンションや2オーバーワンを学びたい人向けにレベルアップ中級講習会を実施する。

さらに、プラザの運営は自分たちが主役ということを地元のプレイヤーに自覚してもらうために、全体の運営方針を審議していく幹事会を設立し、個別的な業務を遂行する各種委員会を組織しプラザの運営に関わっていく。

IMPリーグは夏と冬の2回、平日、土日、クイーンズ及び新人の4リーグを実施したい。セクショナルの開催回数は5割増しとし、最も参加者数の実績が大きいイーブンチャンスチーム戦などを増やし、収支についての改善を図っていく。

[主な事項]

1.体験教室

3月の体験教室 参加 40名

9月の体験教室 参加 30名

2.入門講習会

4月～9月の入門講習会 20名受講

10月～3月の入門講習会 15名受講

3.外部入門講習会(最終的にはブリッジを目指している)

西高宮公民館、白浜町公民館、つつじヶ丘公民館ほか

4.サロン

月曜午前、火曜午前、水曜午前、木曜午後、金曜午前実施

延べ 1,600名、

5.レベルアップ講習会

レベルアップ初級 年間延べ 300名

レベルアップ中級 年間延べ 200名

6.ウィークリーゲーム

月曜午後 平均2テーブル 延べ300名
火曜午後 平均6テーブル 延べ1,200名
水曜午後 平均3テーブル 延べ600名
月例会 平均7テーブル 延べ700名 (月2回実施)

7.ローカル

月2.5回 平均3テーブル 延べ360名

8.IMPリーグ

平日リーグ 6チーム 長崎、広島1チーム
土日リーグ 6チーム 長崎、熊本、広島1チーム
クイーンズ 4チーム

9.セクショナル

以下のゲームを追加

イーブンチャンス 4回
ハンディキャップペア 2回
新人セクショナル 2回

10.ナショナル(リジョナル)予選

文部大臣杯 6テーブル
外務大臣杯 6テーブル
高松宮妃杯 5テーブル
柳谷杯 5テーブル
玉川高島屋杯 4テーブル
読売新聞社杯 5テーブル

2009年度予算

収入

福岡ブリッジプラザ：7,931千円
九州支部：1,830千円
合計：9,761千円

支出

福岡ブリッジプラザ：10,921千円
九州支部：4,304千円
支部事業支援：960千円
合計：16,185千円

その他の事業

1. その他連盟の目的を達成するための事業（32,190千円）

J C B Lの目的を達成するために必要な事業として、本年度は以下の事業を実施する。

- (1) 事務局（一般管理費）の維持
理事会の管轄の下に事務局を設置して諸事業活動を支援する。
- (2) 新5ヶ年計画の実施
企画委員会を中心に作成・採択され、平成20年度より開始した第2次5ヶ年計画の目標達成に努める。
- (3) 公益法人制度改革対応
平成20年12月より施行された公益法人制度改革関連3法に対応し、期限内に新制度での公益社団法人に移行するための準備作業を行う。
- (4) 収益事業の運営（収益事業特別会計に計上）
 - 1) 商品販売事業
ブリッジ用品の補給及び販売
 - 2) 四谷ブリッジセンターとの提携
NPO法人四谷ブリッジセンターと協同してブリッジの振興に努める。
- (5) 基金の運用
主催クラブの指定により、ローカル並びにクラブ選手権試合の公認料をチャリティ基金の資金に充当して各種活動を支援する。
 - 1) チャリティ基金
日本赤十字社、癌研究会等の各種団体に寄付する。